様式第5号（第9条関係）

論 文 内 容 の 要 旨

報告番号		氏　名	中上 純子
Development of a self-efficacy questionnaire," Insulin Therapy Self-efficacy Scale (ITSS)",for insulin users: THE SELF-EFFICACY-Q study インスリン使用患者における新規Self-efficacy質問紙（ITSS）の開発に関する臨床研究			

論文内容の要旨

【目的】 糖尿病治療においてインスリンは効果的に血糖コントロールでき、長く行われている治療法である。インスリン療法の手技は煩雑だが、治療効果を得るために患者自身が着実に実行することが必要である。実行のためには、糖尿病教育や認知機能、身体的能力に加え、Banduraが提唱した"Self-efficacy"、「自己効力感」が重要である。糖尿病治療におけるSelf-efficacyを評価する質問紙はいくつか作成されているが、インスリン治療に特化した質問紙は未だない。そのため、インスリン使用患者に対して新たにself-efficacy質問紙を開発する臨床研究を行った。

【方法と手段】 ITSS 質問紙の開発は妥当な質問紙を作成する際に用いられる標準的な手法で、3 段階を経た。第 1 段階：奈良県立医科大学附属病院外来通院中のインスリン治療中の患者に面談を行い、過去の Self-efficacy 質問紙や専門家の意見を参考に暫定版を作成した。第 2 段階：当院外来通院中の年齢、性別、糖尿病型に分けた対象患者 24 名に暫定版の質問紙を配布し、質問紙の評価を行った。第 3 段階：2016 年 2 月から 6 月に当院と天理よろづ相談所病院の外来通院中で 20 歳以上のインスリン治療中の患者に暫定版質問紙を配布し、計量心理学的評価を行った。

【結果】インスリン使用患者と面談、関連文献の検討で得られた情報に基づき 21 項目の質問を作成した。回答スケールは 7 段階 Likert Scale（7:たいへん自信がある，1:まったく自信がない）を使用した。 因子分析の結果、4 因子（'インスリン投与手技（12 項目）'、'インスリン自己調節（4 項目）'、'良好な血糖コントロール（3 項目）'、'低血糖への対処（2 項目）'）に同定した。信頼性は Cronbach's α 係数で内的整合性を検討し、良好であった(Cronbach's α :0.87-0.89)。再現性は質問各項目に対して重みづけ κ 係数、各因子に対し級内相関係数で測定した。再現性は良好であった（重みづけ κ 係数：0.45-0.80、級内相関係数：≧0.88）。同時妥当性は、外的基準である DTSQ（治療満足度質問表）や PAID（感情負担度）との相関を Spearman の順位相関係数で検討した。DTSQ とは正の相関（ρ =0.49、P<0.001)、PAID と負の相関（ρ =-0.41、P<0.001)を示した。弁別妥当性は各種臨床要因との関連性を検討した。 低い HbA1c、年齢の高さ、長い糖尿病歴、長いインスリン治療歴、血糖値の主観的評価が高い、良好な医師との関係、高い注射実行度ほど有意に質問紙の得点が高かった。

【結論】ITSS 質問紙はインスリン使用中の患者の'Self-efficacy'を評価するための信頼性、妥当性を満たした質問紙である。患者の血糖コントロールや将来的に治療遵守できるかどうか、ITSS 質問紙を用いて推測できる。ITSS 質問紙は患者、医師にとって糖尿病治療を成功させる助けになるのではないか。